



第5回産学官連携サミット

2005年11月14日 東京プリンスホテル

「世界に新たな基幹産業を興す 産学官のあたらしい連携」

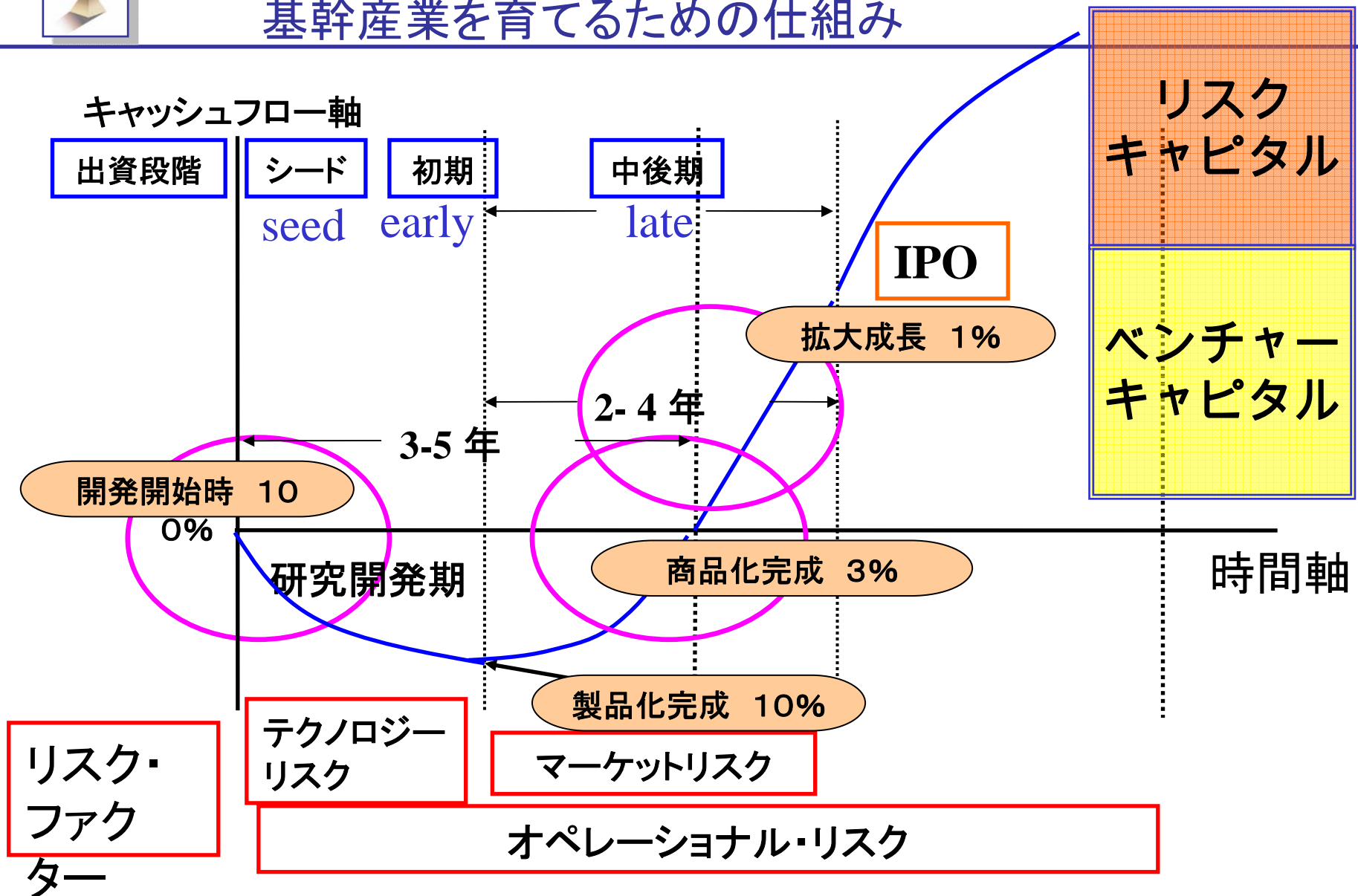


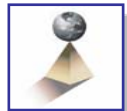
原丈人(はら じょうじ)

DEFTA PARTNERS(デフタ・パートナーズ)グループ会長
米・共和党ビジネス・アドバイザー・カウンセル名誉共同議長
国際連合本部 Wafunif後発発展途上国 代表大使



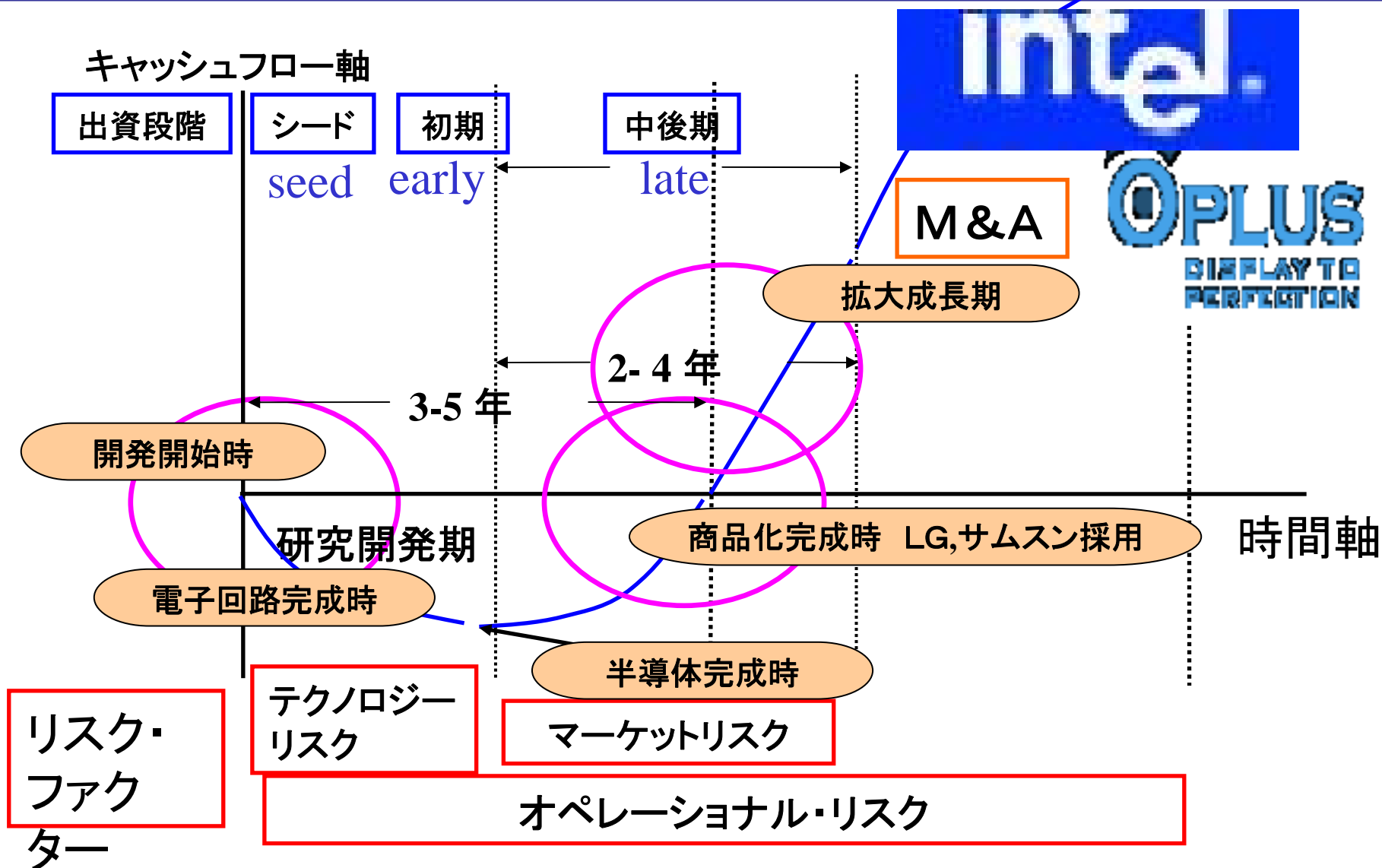
新しいタイプのリスクキャピタルの必要性 基幹産業を育てるための仕組み





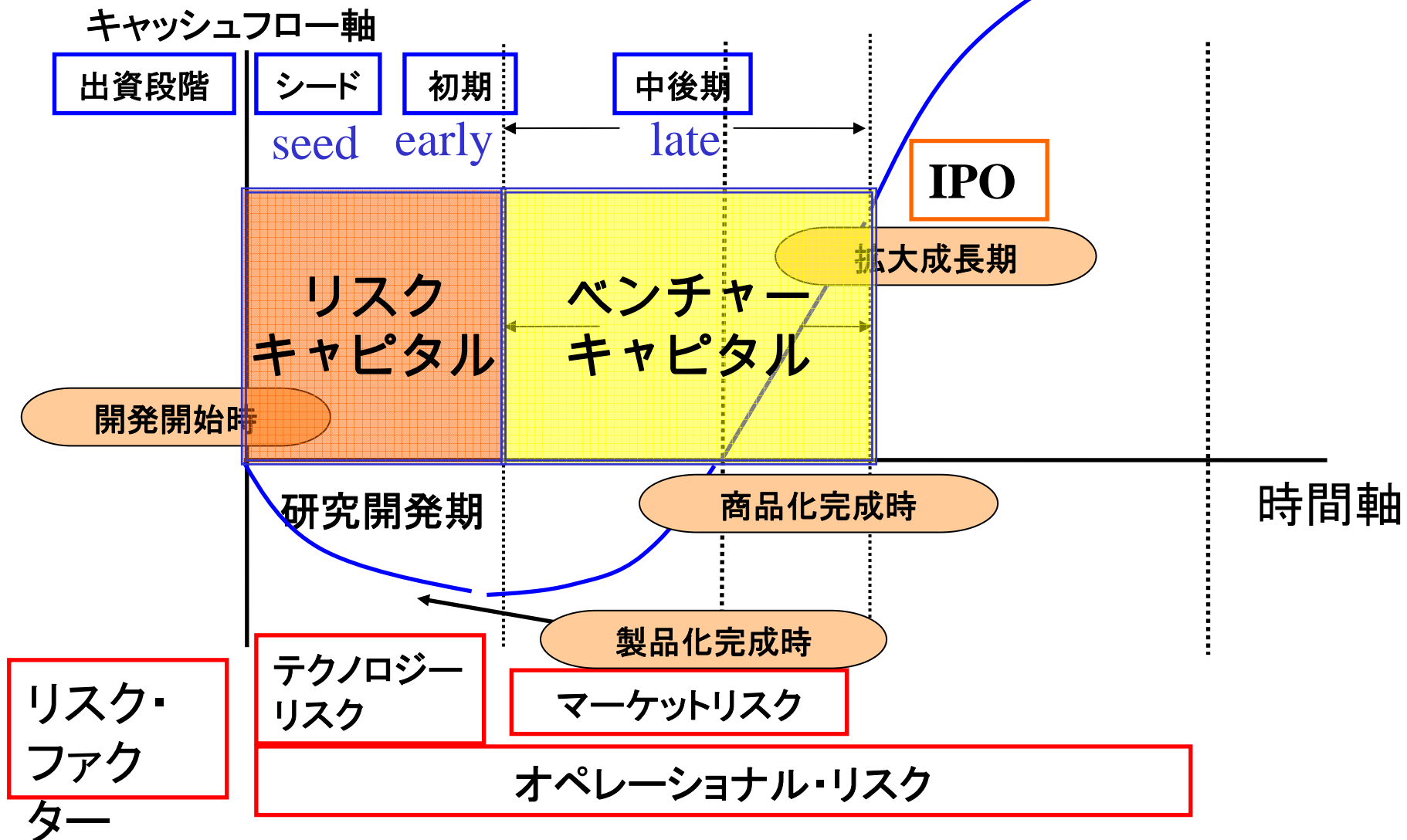
新しいタイプのリスクキャピタルの必要性

ケース・スタディ1 オープラス・セミコンダクター社



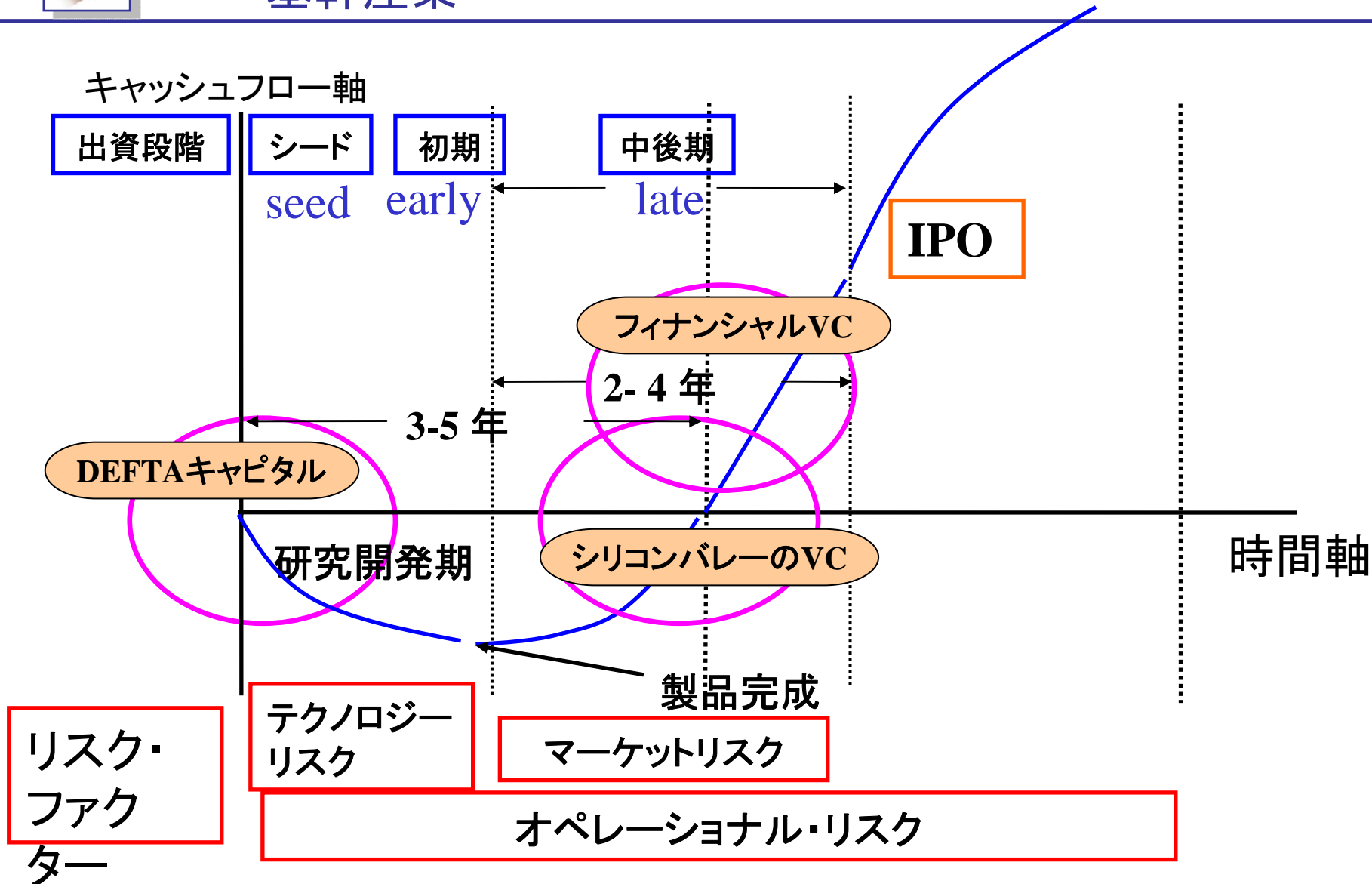


新しいタイプのリスクキャピタルの必要性 基幹産業を育てるための仕組み





新しいタイプのリスクキャピタルの必要性 基幹産業

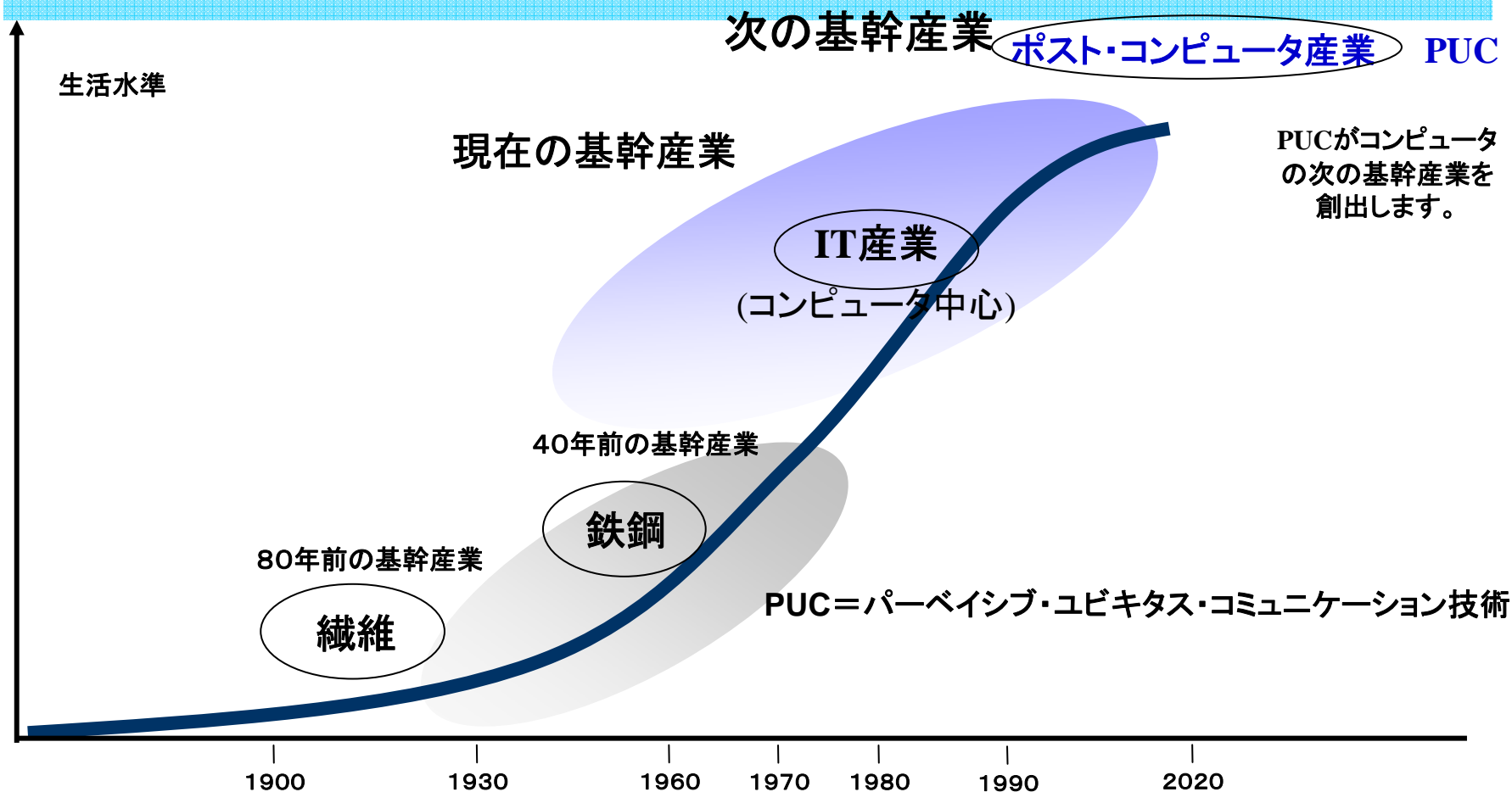


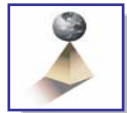


基幹産業の変遷

アライアンス・フォーラムのめざすもの

先進地域(北米、欧州、日本)に向け、IT産業の次の基幹産業を創出する方向を示す。





「世界に新たな基幹産業を興す産官学の連携」

原文人(はら じょうじ)

新しい基幹産業をつくる為の4つのポイント

①テクノロジーの方向性を定める

ひとつの産業をつくるくらいのインパクトのあるテクノロジー群を選ぶ
(例)PUC 人間が機械にあわせる時代から機械が人間にあわせる時代(技術の設計思想の変化)

ユビキタス・コンピューティングからPUC(パーペイシブ・ユビキタス・コミュニケーション)への移行—Uジャパン実現のための不可欠な技術

②新しいタイプのベンチャーキャピタルの必要性

「基幹産業創造(リスク)キャピタル」産業の定義と投資対象の範囲と特徴

- ・テクノロジーリスクが大きいものに挑戦
- ・技術のすそ野が大きい—幅広い応用がきく基礎技術
- ・産業の派生創造効果が大きい—ソフト、ハード、サービス産業への波及
- ・製品化までに時間がかかる—組み合わせテクノロジーとは異なる
(法律、制度、税制を変革し、世界から人材と資金が日本へ集まるしくみをつくる—国の補助金は不要。敢えて行うならマッチングファンド)

「世界に新たな基幹産業を興す産官学の連携」

原文人(はら じょうじ)



③新しい産業の為の新しい企業統治

(コーポレート・ガバナンス)

- ・会社は株主のために経営するのではない
 - ・中長期の経営ができる環境
- 時価会計、減損会計主義のみなおし

④新しいテクノロジーPUCが利用できるインフラを発展途上国にも創り出す
—途上国にPCを配る事によってデジタルデバイドをなくすのではなく、パソコン時代を飛びこえて(リープフロッグ)次のPUC時代へと導く。

⑤新しい産学官連携のしくみづくり

.学内企業が外部組織を活用してひとり立ちするためのルールをつくり
国の補助金を受けた1000社のその先を創る. —確認項目

テクノロジー・マーケティング・オフィスの導入(90年代原財団の提唱)

①から④のテーマをもとに、産学官の役割分担を明確にし新しい産業を創る。
学生・研究者に対しては考えることを通じて大きな理念を理解する場を創る
目先の金ではなく、大きな理念(面白さ)を追求。結果として産業界は潤い、官
は公益を果たす。個人は金銭的(?), 人間的に豊かになる。